

第3回 円福杯球技大会 実施要項

1. 目的

- (1) 円福寺愛育園の児童が、地域の児童と交流し、円福寺愛育園の児童の良いところ、地域の児童の良いところをお互いに学び合う機会とする。
- (2) 勝敗よりも、礼儀・あいさつ・マナー・道具の管理（準備、整理整頓、後片付け）などの試合における選手の心を重視し、参加児童の普段の生活の向上に資する大会とする。
- (3) 円福寺愛育園の児童と交流することにより、地域の児童も円福寺愛育園の児童もお互いに理解を深め、より立派になる大会とする。
- (4) 地域の方々が円福寺愛育園を児童教育の拠点の一つとして理解し活用していただく機会とする。

2. 主催 円福杯球技大会実行委員会

3. 運営主体 円福寺愛育園

Tel 026-292-5022 FAX 026-293-0077 (担当者 富沢)

4. 開催日時

平成30年9月8日(土) ※雨天中止

8時00分 開会式(8:30 試合開始) *集合・受付 7:30~

5. 会場

長野市・横田グラウンド

6. 参加チーム

八幡スポーツ少年団・坂城ガッツ

共和ファイターズ・円福寺愛育園少年少女野球団

7. チーム編成

小学生に限る

8. 参加料 1チーム 5,000円

9. 試合規程

①ルールは日本公認野球規則並びに大会規程準則によるものとする。

②円福杯野球大会準則(別紙)

10. 審判員

主審は、主催者が認めたものが行う。また塁審については各チームより3名お願いします。

11. 賞

優勝 表彰状・優勝旗・金メダル

準優勝 表彰状・準優勝トロフィー・銀メダル

三位(2チーム) 表彰状・銅メダル

12. その他

*優勝旗、優勝カップ、トロフィー等は来年度返還がありますので、受賞チームが責任をもって管理する。破損がある場合、該当チームで修理する。

*組み合わせ抽選については、主催者の責任抽選とする。

第3回 円福杯球技大会

規定準則

(野球の部)

- 1、試合規則は、原則として「2018年度日本公認野球規則」に準拠する。
- 2、特別グラウンドルールは、試合前に本部より指示されたものを守る事とする。
- 3、審判は主催者が認めた者が行う。また各チームより審判の協力も願います。
- 4、試合進行は、審判員及び大会本部役員の協議による。
- 5、試合の組み合わせは主催者の責任抽選で決定する。
- 6、試合形式はトーナメント方式をとる
- 7、ベンチは組み合わせ番号の若いチームを1塁側とし、ランナーコーチャーは登録選手とする。
- 8、先攻・後攻はジャンケンで決定する。
- 9、試合は70分制（70分を過ぎたら次のイニングに入らない）。最長は7回とする。次の場合はコールドゲームを適用する。
 - ① 3回以降終了時において、降雨又は日没により試合続行が不可能で得点差がある場合
 - ② 3回以降終了時において10点差以上の差がある場合
 - ③ 試合続行が不可能と監督が認め、その旨を球審に申し出た場合
- 10、試合中、降雨・日没・グラウンドの状態などにより試合続行が不可能な場合、3回を終了していれば正式試合とみなす。3回を終了していない場合は、審判および大会役員で協議を行い決定する。
- 11、70分で同点の場合は、もう1回表裏のイニングを行う。それでも勝敗がつかない場合は、終了時の出場選手各チーム9名ずつによるくじ引き抽選で決定する。
- 13、監督、主将は、前試合終了後にグラウンド責任者がいる所に集合しオーダー表を提出する

- 14、オーダー表は各チーム3部作成し、そのうち2部を試合開始前にグラウンド責任者に提出する。グラウンド責任者はオーダー表を確認し、そのうち一部を相手チームの監督に渡す。
- 15、1チーム選手15名以内、監督1名とし、ベンチ入りする者は、選手と監督及びコーチ・マネージャーとし、その他の者はベンチ外の指定された場所で応援する。ただし、大会本部役員及び大会関係者はこの限りではない。
- 16、選手はユニホームを着用する。監督もユニホームを着用する。
- 17、試合前のシートノックは5分以内とし、時間の都合により行わない場合もある。
- 18、主審は、大会本部で依頼した方に限る。また塁審は、試合を行う各チームより選出する。
- 19、試合中の抗議は監督に限る。ただし、アピール権は選手にもある。
- 20、監督もしくは選手が指示を与える場合、原則として1試合2回までを限度としてマウンドに行くことができる。
- 21、ボークについては、原則として1回目は注意・指導をし、それ以降は審判員の協議により適用する。
- 22、小学4年生以下がピッチャーをやる場合はホームベースから14mの距離から投げることができる
- 23、試合に使用するボールは全日本軟式野球連盟公認球C号ボールとする。
- 24、金属バットの使用は、JSBB公認のバットを使用する。しかし落雷時の使用は危険を伴うため、その場合は審判の判断で試合を一時中断する（規定準則10）
- 25、ファールボールについては各ベンチ側が取りに行く
- 26、試合前の練習は指定された場所以外では行わない。
- 27、隠し玉は禁止としないが、フェアプレーが大原則であることを子どもたちに伝える。声だし（やじなど）も同様とする。
- 28、試合時間はランニングタイム制とするが、状況に応じてグラウンド責任者の下で時間を止めるものとする。